

2024. 7. 4

平和をつくり出す宗教者ネット

関東大震災朝鮮人追悼 歴代知事の対応を学ぶ

関東大震災で虐殺された朝鮮人への追悼文を小池百合子都知事が拒んでいる問題について、平和をつくり出す宗教者ネットが6月20日、東京都千代田区の参議院議員会館で集会を開いた。9・1関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式典実行委員長の宮川泰彦氏（日朝協会東京都連会長）が講演し、歴代知事の対応や問題の経緯を話した。



小池都知事を批判する
宮川氏

宮川氏は関東大震災50周年での朝鮮人追悼碑建立運動の経緯を説明。追悼碑や朝鮮人犠牲者追悼式典には、当時の東京都の総意として都知事と都議会全会派（自民・社会・公明・共産）の幹事長らが賛同し、「今に比べると幅広い人たちが参加していた」と振り返

り、賛同者の中には市川房枝ら国会議員、民法学の第一人者・我妻栄なども参加していたという。これまで追悼式典には美濃部亮吉、鈴木俊一、青島幸男、石原慎太郎、猪瀬直樹、舛添要一ら歴代知事が追悼文を出してきた。小池都知事も就任1年目に同様の追悼文を送付したが、2017年以降、追悼文の送付をとりやめている。

宮川氏は、虐殺について小池都知事が「その他様々な事情でお亡くなりになった」として言明せず、追悼文を出さないことは「虐殺があったことを認めたくない、明らかにしたくない」ことの表れだと批判した。

小池都知事のこうした歴史修正的な姿勢が行政の忖度を生み、右翼的な流れを強める可能性も危惧。2008年の内閣中央防災会議専門調査報告書にも関東大震災での朝鮮人虐殺は記載されており、「これをなかつたことにするのは許されない。歴史が前に進まないだけでなく、暗い世の中に戻る。絶対に同じ過ちを繰り返させてはいけない」と話した。